

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	プレイヤーコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	堀越彰、崎村純弥、橋本佳紀、篠崎保
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	楽器に対する技術をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるミュージシャンとしての幅を広げます。
到達目標	歴史的意義がある楽曲について、理解し、現代的な楽曲の中に自身の目線で自分ごととして落とし込み、自身のレパートリーとできることを目標とする。
授業方法	楽曲毎に、講師によるデモ演奏を交え、動画や本、音源では体感が困難である立体的な音像を確認のうえ、授業を進めていく。また、適時指定教科書からの抜粋フレーズも学び、体系的に学習する。課題曲の学習順番は、演奏法習得状況に応じて弾力的に変更する。
成績評価方法	14回目または15回目にて授業内発表を講師と合奏を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	ドラム：Progressive Steps to Syncopation for the Modern Drummer ギター： エレキギター・バッキングのアイデア"即戦力"135 ベース： はじめてのジャズベース キーボード： キーボード・バッキングのアイデア"即戦力"138

授業計画	
第1回	授業の概要説明。課題曲「Scatterbrain」におけるフレージング。
第2回	課題曲「Scatterbrain」におけるフレージング。
第3回	課題曲「Scatterbrain」におけるフレージング。
第4回	課題曲「Truth」におけるフレージング。
第5回	課題曲「Truth」におけるフレージング。
第6回	課題曲「Truth」におけるフレージング。
第7回	課題曲「Cissy Strut」におけるフレージング。
第8回	課題曲「Cissy Strut」におけるフレージング。
第9回	課題曲「Cissy Strut」におけるフレージング。
第10回	課題曲「Some Skunk Funk」におけるフレージング。
第11回	課題曲「Some Skunk Funk」におけるフレージング。
第12回	課題曲「Some Skunk Funk」におけるフレージング。
第13回	後期課題曲のまとめ
第14回	講師と合奏形式による後期試験課題を演奏。
第15回	講師と合奏形式による後期試験課題を演奏。

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	プレイヤーコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	堀越彰、崎村純弥、橋本佳紀、篠崎保
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	楽器に対する技術をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるミュージシャンとしての幅を広げます。
到達目標	好きな音楽のルーツや文化的な成り立ちを学習することによって、既成概念にとらわれないオリジナリティーを作品に織り込めるような思考を体得する。同時に、ポップスフィールドの中でコードネームに対して音楽をより良くする適切なパッキングが出来るインプロヴィゼーション力を体得する。自分本位な演奏だけでは無く、いかに周りの音を聴きながら演奏するか、そして良い演奏を行うためのコミュニケーション能力も体得する。
授業方法	即興力を身につけるために、各回のテーマに沿った課題曲を時間をかけ演奏を実施する。必要に応じた講師からのフィードバックにより今後への課題を各自考察する。ヴォーカリストコースとのコラボレーションによる共創型課題も適時実施する。各楽器奏法の体得に加えて、サウンドの加工やエフェクトの使用法を解説する。実際にクライアントに求められるような内容に沿ったサウンド作品の制作をPBLベースで実践する。
成績評価方法	提出物課題60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する) 平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適宜、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第2回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第3回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第4回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第5回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第6回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第7回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第8回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第9回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第10回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第11回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第12回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第13回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第14回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・制作実習
第15回	前期のまとめ

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	プレイヤーコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	堀越彰、崎村純弥、橋本佳紀、篠崎保
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	楽器に対する技術をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるミュージシャンとしての幅を広げます。
到達目標	幅広いジャンルの課題曲の演奏アプローチを学習することによって、バンドアンサンブルをより良くするためのインプロヴィゼーションスキルを体得する。自分本位な演奏では無く、いかに周りの音を聴きながら演奏し、最良のアンサンブルに仕上げるか、そのためのコミュニケーション能力も体得する。
授業方法	楽曲毎に講師によるデモ演奏を交え、動画や本、音源では体感が困難である立体的な音像を確認のうえ、授業を進めていく。バンド演奏の中で各楽器の最良の音色作り、奏法の体得に加え、即興によるパッキング演奏、フレーズ演奏に挑戦し、柔軟かつオリジナルな演奏者を目指すための考察を深める。ヴォーカリストコースとのコラボレーションも適宜実施する。課題曲の学習順番は、演奏法習得状況に応じて弾力的に変更する。
成績評価方法	14回目または15回目にて授業内発表を講師と合奏を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適宜、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	「Habit」（セカオワ）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第2回	「Habit」（セカオワ）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第3回	決められたコード進行によるインプロヴィゼーションを行う。
第4回	「Chicken」（Jaco他）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第5回	「Chicken」（Jaco他）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第6回	決められたコード進行によるインプロヴィゼーションを行う。
第7回	「リルラ リルハ」（木村カエラ）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第8回	「リルラ リルハ」（木村カエラ）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第9回	決められたコード進行によるインプロヴィゼーションを行う。
第10回	「Cantaloupe Island」（ハービーハンコック他）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第11回	「Cantaloupe Island」（ハービーハンコック他）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第12回	決められたコード進行によるインプロヴィゼーションを行う。
第13回	「Loser」（米津玄師）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第14回	「Loser」（米津玄師）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第15回	後期のまとめ、課題曲演奏による授業内実技試験、フィードバック。

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	プレイヤーコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	堀越彰、崎村純弥、橋本佳紀、篠崎保
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	楽器に対する技術をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるミュージシャンとしての幅を広げます。
到達目標	幅広いジャンルの課題曲の演奏アプローチを学習することによって、バンドアンサンブルをより良くするためのインプロヴィゼーションスキルを体得する。自分本位な演奏では無く、いかに周りの音を聴きながら演奏し、最良のアンサンブルに仕上げるか、そのためのコミュニケーション能力も体得する。
授業方法	楽曲毎に講師によるデモ演奏を交え、動画や本、音源では体感が困難である立体的な音像を確認のうえ、授業を進めていく。バンド演奏の中で各楽器の最良の音色作り、奏法の体得に加え、即興によるバッキング演奏、フレーズ演奏に挑戦し、柔軟かつオリジナルな演奏者を目指すための考察を深める。ウォーカリストコースとのコラボレーションも適宜実施する。課題曲の学習順番は、演奏法習得状況に応じて弾力的に変更する。
成績評価方法	14回目または15回目にて授業内発表を講師と合奏を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適宜、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	「Habit」（セカオワ）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第2回	「Habit」（セカオワ）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第3回	決められたコード進行によるインプロヴィゼーションを行う。
第4回	「Chicken」（Jaco他）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第5回	「Chicken」（Jaco他）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第6回	決められたコード進行によるインプロヴィゼーションを行う。
第7回	「リルラ リルハ」（木村カエラ）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第8回	「リルラ リルハ」（木村カエラ）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第9回	決められたコード進行によるインプロヴィゼーションを行う。
第10回	「Cantaloupe Island」（ハービーハンコック他）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第11回	「Cantaloupe Island」（ハービーハンコック他）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第12回	決められたコード進行によるインプロヴィゼーションを行う。
第13回	「Loser」（米津玄師）の基礎的な演奏（リズム、ピッチに留意する）
第14回	「Loser」（米津玄師）のアドリブを交えた演奏（アドリブソロ、リズムパターンと構成のヴァリエーション）
第15回	後期のまとめ、課題曲演奏による授業内実技試験、フィードバック。